

氣賀湯。蘆の湯よりこれまで一里なり、此間に明礬を制する所あり、氣賀の中に、岩湯、上湯、平の湯、大瀧等の四ヶ所あり、いづれも氣味鹹して明礬の香あり、中風疝氣を治す、底倉湯。氣賀より半里、中むかし地震ふて、名物石風爐も絶て、今纔に内湯二三ヶ所あり、此所の民家、箱根名物挽物細工を業とす、

宮下湯。底倉湯より二町ばかりにて、大略家續き也、内湯、瀧湯あり、内湯とは、温泉の水脈より、樋にて家々にとり入湯す、瀧湯とは、樋より、笕にとりて家の内にて瀧のごとく温泉を落し、これに打る、也、頭痛、痲痺、腰の痛を治す、打る、に氣味快きものなり、

堂島湯。宮の下より五町ばかり山下なり、内湯、瀧湯あり、氣味鹹はゆくして、積聚疼痛を治すなり、塔之澤湯。堂が島より一里半あり、七湯の中にて、地境廣くして風景の勝地なり、山を勝麗山と號し、川を早溪といふ、いさよひに記あづま路の湯坂をこえて見わたせば、玄ほ木流る、早川の水、

橋を玉緒橋といふ、水戸黃門光圀卿、明人舜水と共にこゝに逍遙し給ひ、此號をはじめて呼せらる、浴舎美麗にして廣く、書院、數寄屋、庭中何れも佳景なり、江府より諸侯時々こゝに湯治し給ふ、元湯を秋山彌五兵衛、一之湯を小川澤右衛門、内湯は田村久兵衛、藤屋喜八、喜平治、小兵衛等なり、都て家數廿三軒あり、此温泉は氣味軽くして養生湯なり、諸病を治す、

湯本湯。塔澤よりこゝまで十町あり、町の中に浴屋ありて、四間に仕切る、内湯も二三ヶ所あり、腫物、瘡毒、微病の類によし、これより三枚橋へ五町許あり、峠を歩て橋の東爪へ出る、これより本道東海道なり、

〔古史傳神代十八〕箱根は、桓武天皇紀には宮荷とも有て、相模と駿河との堺なるが、相模に屬る足柄山の嶺續にて、万葉に、足柄乃宮根、飛超行鶴乃云々、また安思我良能波姑禰乃夜麻爾云々など、足柄のと詠たれば、古より相模國に屬たり、略註、箱根之元湯是也とは、箱根に、蘆湯、木賀、底倉、宮城野湯